昭和大学歯学部だより　2006．1号

通算26号
2006．1．31発行

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　五十嵐　武
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL 03-3784-8000
ホームページ：http://www. showa-u. ac. jp

歯学部創設30周年

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます．

巻頭言

歯学部長　宮崎　隆

新年おめでとうございます．歯学部関係者にとって新しい年が輝かしい一年になるようお祈り申し上げます．

新年を迎えたとは言え，大学の暦では年度末で，学生の試験や成績判定，進級，卒業と慌ただしい時期が続きます．平成18年度の入試もこれからが本番です．色々な制度の変わり目のなかで，4年生は1－2月に共用試験を正式に受験します．6年生の国家試験は2月11，12日と例年よりも早くなり，国家試験に合格すると4月から1年間の研修が義務づけられます．学生にとっても厳しい時期が続きますが，たくましく乗り切っていくことを期待しています．

4月からの新しい平成18年度は，昭和大学にとっては歴史的に新しいスタートになります．機構改革した富士吉田教育部において，保健医療学部の1年生も一緒に4学部そろって1年次教育がスタートします．薬学部は6年制になる最初の学生を迎えます．大学をあげての教育改革の取り組みの中で，「学部の枠を越えてともに学び，互いに理解し合え，協力できる人材を育成する」という昭和大学の教育理念に基づいて，歯学部では新カリキュラムを推進してきました．平成18年度からはこの理念がさらに強固なものになると確信しています．

新カリキュラムでは，いよいよ共用試験に合格した新5年生が臨床実習に進みます．共同診療室を中心に内容の充実した診療参加型実習ができるように英知を絞っていきましょう．また伸ばす教育としての選択実習について，昨年中に国外の施設を含めて受け入れ施設の準備を進めてきましたが，今春新6年生に必修で実施します．学生が6年間の仕上げとして実力を伸ばし，将来に対する自覚を深めていけるように，関係者の支援を宜しくお願いします．

今年の11月には歯学部創設30周年の記念講演会と式典を予定しています．創設いらい多くの諸先輩の強いリーダーシップのもと，昭和大学歯学部は著しい発展を遂げてきました．歯科病院は教育病院として，また地域の中核病院として確固たる地位を築いてきました．多くの卒業生が地域社会で活躍しています．30年を区切りに，先輩諸氏また同窓生の築いてきた本歯学部の伝統をさらに発展させていきましょう．

世界に類をみない超高齢社会を目前にして，歯科界からも今まで以上に積極的に国民の健康に貢献することが求められています．そのキーワードはチーム医療でしょう．医系総合大学の本学の環境は，新しい歯科医師教育，および歯科医療の展開に最も適していると確信しています．われわれはプライドと自信を持って，新しい教育と診療，さらに世界に貢献できる研究を推進していきましょう．

新年にあたり，歯学部教職員の一層のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます．

外国人研修生との懇親会開催される

歯学部長　宮崎　隆

毎年恒例の外国人研修生との懇親会が本学国際交流センターの主催で，去る平成18年1月23日（月）に，大学病院中央棟7階の食堂で開催されました．

細山田学長，片桐医学部長，宮崎歯学部長の挨拶に引き続き，野瀬薬学部長の乾杯で開会しました．国際交流センター運営委員会の教授と研修生の受け入れ教室の教授が多数参加し，14名の研修生と懇親を深めました．歯学部からは，口腔解剖学教室のDr. Mohammad Hafiz Uddin（バングラディシュ），歯科理工学教室のDr. Deng Jiayin（中国），および歯科矯正学教室のDr. Ruman Uddin Chowdhury（バングラディシュ）とDr. Miyuki Onaga（ボリビア）の4名が参加いたしました．研修生の自己紹介ではどの先生も流暢な英語と日本語を交えて，昭和大学と関係教室への謝意を表していました．

昭和大学の外国人研修制度は他大学と比較して非常に充実しており，これまでも国際交流に多大な貢献をしてきました．歯学部としては今後，教員や学生の国際交流を一層推進する予定であり，外国人研修生に対してもきめ細かい指導と母国へ帰国後の交流が継続できる体制を整備していきたい．

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年生　鈴木　有希子

歯について勉強しはじめの時期にPBLを体験したことは，私たちにとってとても意義深いものとなりました．PBLでは先生方の意気込みが強く感じられ，知識の少ない私たちの意見は発想が豊かだとおだてられてのスタートでしたが，私たち学生は，特に力むことなく取り組めたと思います．そして，図書館に通ううちに，自分で調べて目的の資料を手に入れる喜びを自然に得ていたことに気付きました．

将来，歯科医療の現場ではリーダーとならなければならないが，いろいろなメンバーの中で，自分の役割を認識して行動することの必要性を学びました．意見交換ではよく理解したつもりでも，いざ発表してみるとうまく説明できなかったり，他の人と自分の意見をまとめることの難しさも経験しました．改めて，自己発見の場にもなりました．同時に，他の人がどれだけ課題に取り組んで，まとめ，どのように表現しているかの評価の眼も持つことができました．また，3回のリソース講義は自分で集めた資料が予習となってより印象深いものとなりました．

毎回のサマリーは，どの程度調べてゆけばいいのか不安もあったし，旗の台の図書館には歯科に関する資料が少なく，あっても古い書物ばかりで残念でした．PBL期間だけでも歯科病院の資料が旗の台で手に入れられるシステムがあったら，最新情報に出会える楽しさが増えて，もっと有意義になったと思います．

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年生　堀内　淳郎

歯学部2年生の「口腔の生態系」ユニットのPBLが終了しました．中期までの授業は基礎科目がぎっしり詰まっており，毎日を乗り切るだけで精一杯でした．そのためせっかくの講義や実習も受動的に受けてしまったように思います．歯に関連する専門科目を習っていなかったこともあり，自分も含めて歯学部の学生であるという自覚が足りなかったようです．そのような中，後期より「口腔の生態系」ユニットが始まりました．このユニットはご存知のように講義とPBLからなっています．始めに「昭和大学歯学部の教育におけるPBL」と「昭和大学歯学部におけるPBLの現状」の説明を受け，これは今までのユニットとはまったく違うものだと感じました．

実際，PBLが始まってみて，スモールグループで討論する意義，自ら課題を調べることによる知識の定着と理解の深さを実感しました．特にファシリテーターの先生方が，我々学生をサポートしてくださったことが，今回のPBLをよりよいものにしたのだと思います．PBL委員会の先生方，ファシリテーターの先生方ともに，各々専門のお仕事でご多忙にもかかわらず，我々の議論と自己学習をよりよいものにしようと努力してくださいました．自分はその熱意を感じ，昭和大学で歯学を学べることを幸せに感じました．PBLを支てくださった多くの先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます．

口腔の生態系PBLを体験して

歯学部2年生　長田　翔子

実際に将来目の当たりにしそうな問題に対し，自分たちで根拠を調べて説明するという作業を今回初めて体験しました．最初に討論全体の進め方から図書館での文献の探し方まで教えてもらえたので安心したのですが，やはり不安と期待でいっぱいでした．

そして実際PBLが始まってみると，人の注意を集めることや内気な人の意見を聞き出すこと，意見をまとめることの難しさに困惑しました．しかも，実際自分で答えを調べるとなるとそのリソースは古くないのか，本当に今もその考えでよいのか，この考え方は個人的なものなのか一般的なものなのかなど，不安や考えることが多くて大変でした．

でもやはりPBLの討論ではいろいろな意見が出てきたり，意外なところが重要であったりして，とても面白かったです．最初はなんとなく教科書に書いてありそうな考えしか浮かばなかったのですが，PBLが進むにつれて講義とは違った考え方をするようになり，自由に疑問をもつようになりました．そして，これからどんな問題が生じても今回のように1つひとつ疑問を整理し，答えを探していけば何とかなるのだという自信をもつことができました．ひとつの事柄には様々な原因があり，それらをつなげて考えるためには色々な分野の知識が必要なのだと実感できる体験学習だったと思います．

D2口腔の生態系 PBL（新しい試み）

PBL テュートリアル委員会　馬谷原　光織

平成17年12月に，D2口腔の生態系ユニットの一環として行われたPBLで，2つの新しい試みがなされました．

1つは「PBLオリエンテーション」です．これは図書館スタッフ9名のご協力により，図書館ツアーとPC講習を行っていただき，学生が図書館利用法と文献検索の実際を学びました．その際，学生は調査例題に取り組み，医学中央誌 Web 検索，OPAC検索を行い，実際に書籍・文献抽出，レポート提出を行いました．後のアンケート結果では，“このオリエンテーションを2年生の初めにやってほしかった”との要望が多く見られました．

2つ目は「PBL学習支援システム」の導入です．ここではPBL委員が学生にPC講習を行い，Web ページ上でファシリテータ・学生間のグループ単位での連絡や，レポートの受け渡しが容易に行えるように指導しました．このシステムは，学生およびファシリテータに混乱なく受け入れられ，活用されると共に，情報伝達の確実性やファシリテータ実務量の減少につながり，多くの利点をもたらしました．

一方，新たな問題点として学習支援システムの利用におけるファシリテートガイドライン作成や Web 教材提供の必要性が指摘され，今後の検討課題となりました．特に Web 教材の提供は，現在の学生数に対する「蔵書量や関連教材の不足」といった問題を解決する上で，緊急性の高い重要課題と考えられます．

来年度より，歯学部設備増強に加え，総合情報管理センターのスタッフにもご協力いただけることになり，より一層の教育内容充実と業務効率化を図る努力をしてまいります．

第4回国際歯科PBL学会およびシンポジウム報告

小児成育歯科学教室　浅里　仁

第4回国際歯科PBL学会およびシンポジウムが平成17年10月23日から27日にタイ（ナコン・ファトム）で開催されました．参加者は13か国，約100名で，日本からは昭和大学，東京医科歯科大学（2名），日本歯科大新潟歯科（1名）が参加し，本学歯学部からは中島講師（口腔解剖学），片岡講師（顎口腔疾患制御外科学），伊佐津助手（歯周病学）と私の4名が参加しました．

この学会およびシンポジウムは Keynote Lecture, Workshop, Poster Presentation の3部門で構成されており，Keynote Lecture では，Speaker としてPBLを歯学教育に取り入れて歴史の長いアデレート大から Townsend 教授，Winning 講師，南カルフォルニア大学の Shuler 教授などが参加されました．また，Poster Presentation では，各大学でのPBLについて報告があり，本学歯学部からは今年の4月に行った3年生の顎関節のPBLについて片岡講師，伊佐津助手が発表しました．参加者とのディスカッションでは，教育事情や環境は異なるものの，今後の昭和大学歯学部のPBL教育を考えるにあたって，大変有意義な時間を過ごすことができました．当初，学会場はプーケットが予定されていましたが，Tsunami の影響で首都バンコクから30Km離れた場所での開催となりました．しかし，主催された Thamasat 大学の先生方や Co.Stuff として参加したタイ臨床研修前の5年生の学生さんのおかげで，実りある学会となりました．

次回は2007年にハーバード大学で開催されますので，多くの先生方の参加を期待しております．なお，学会発表の内容の一部がホームページで公開されております．（http://www.dentistry.tu.ac.th/）

ゴードン会議（アメリカ）報告

歯科薬理学教室　鈴木　恵子

オステオポンティン関連タンパク国際会議は，従来，3年に1度，米国で開催されていましたが，米国の研究グループの努力により，”Small Integrin-Binding Proteins”という名でゴードン会議の1セッションとして組み込まれることになりました．平成17年9月に，第1回カンファレンスが，テキサス大学の Butler 教授と NIH の Fisher 教授をオーガナイザーとしてモンタナ州のビッグ・スカイで開催されました．この地は間欠泉や山火事で有名なイエローストーン国立公園から70マイルほど北東に位置しており，標高が高いため，冬はスキーリゾート施設として人気があるそうです．

5日間にわたる会議はインテグリンのリガンドとして働くタンパク(Osteopontin, BSP, DMP1, DSPP) について，硬組織・免疫・腫瘍の分野から数人の代表的研究者による基調講演と一般募集によるポスター展示，およびポスターの中から選ばれた口演演題についての討論という形式ですすめられました．日本からは10人ほどが参加しましたが，東医歯大の野田先生が骨組織，また北大の上出先生が組織再生での osteopontin の役割に関する基調講演をされたほか，北大の今先生が肝炎，私が破骨細胞の osteopontin について口演を行いました．参加者はすべて会議場に隣接したホテルに宿泊し食事も一緒なので，具体的な実験方法などを聞いたり，共同研究の約束をしたりと，とても和やかでかつ有意義な会議となりました．

最後に，次回，次々回の日程と世話人を選出して閉会し，2年後の研究成果を期待して別れを告げました．

Jia-yin Deng助教授　学会発表

口腔微生物学教室　有本　隆文

第4回パンパシフィックインプラント学会（The 4th Annual Meeting of Pan-Pacific Implant Society）が平成17年11月5，6日に，福岡国際会議場で開催されました．Special Lecture ５題，Invited Lecture ８題，Oral Presentation １０題，Technician Session ４題，Opening および Closing Lecture が1題ずつという構成で会は行われました．パンパシフィックと銘打っていることからも，本学会には他のアジア諸国の方々も参加していました．

Deng 助教授は，本学歯学部が提携を結ぶ中国・天津大学から1年間の予定で留学されており，歯科理工学教室に在籍し，口腔微生物学教室との共同研究で，インプラント母材であるチタンに抗菌性を賦与した抗菌チタンの性質に関する研究に従事されています．今回は，その成果を「Titanium Plate Anodized by Discharging Exhibits Antibacterial Activity Against Oral Bacteria」と題して発表されました．

学会規模は小さいながらも内容は大変充実しておりました．ユニークだなあと感じたのが，15分の持ち時間のうち，発表は8分で質疑応答が7分と時間に余裕を持たせ，活発な討議を促しているところでした．国際学会なので発表はすべて英語ですが，何事も無く立派に発表を終えられました．Deng 先生は残りの留学期間もこの研究を継続される予定で，更なる研究成果が期待されます．

第4回　昭和大学理事長杯ゴルフコンペ

歯科補綴学　塚崎　弘明

去る，平成17年11月15日（火），本学創立記念日に第4回学校法人昭和大学理事長杯ゴルフコンペが開催されました．当日，会場となった静岡県のファイブハンドレッドクラブは日本でも屈指の名門で，レイアウトも戦略性に富んだ素晴らしいコースです．

当日は生憎，曇天の肌寒い一日でしたが，小口理事長，細山田学長をはじめ，昭和大学の各部署から腕に自慢の約160名が参加しました．競技は施設対抗の団体戦と，個人戦で行われます．歯学部からは，基礎の立川，井上両教授と堀田講師，エースの川和歯科病院長以下臨床の教室員，事務，看護師の総勢24名が参加しました．これまで歯学部は，個人戦では度々上位に食い込んできましたが，残念ながら団体戦での優勝はありませんでした．

しかし，この日はエース川和以下，参加者の多くが日頃の練習の成果を発揮し，好スコアを叩き出しました．そして，見事念願の初タイトルの栄冠を手にしたのです！又，個人戦でもエース川和が予想を裏切らぬ79の好スコアでベストグロスを獲得しました．

ゴルフの世界では，初優勝より2回目の方が難しいと言われています．歯学部の皆様，次回は連覇を目指し仕事に支障をきたさない程度に日々研鑽を重ねて参りましょう．

行事予定

広報委員長　五十嵐　武

2月11日（土）：D4　OSCE
2月11，12日（土，日）：歯科医師国家試験
2月20日（月）：D4　CBT追再試験
2月25日（土）：大学院・社会人大学院入試
2月28日（火）：D4　OSCE追再試験
3月5日（日）：選抜Ⅱ期入学試験
3月17日（金）：卒業式・謝恩会
3月25日（土）：大学院修了式

診療統計

医事課　長谷　孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	17,477	832.2	796.6	794.3
入院患者	355	11.5	13.0	16.1

平成17年12月分

編集後記

広報委員（口腔組織学教室）　馬谷原　光織

年明け早々の依頼にもかかわらず執筆を快く受けてくださった先生方に感謝いたします．12月に行なわれた“口腔生態PBL”学生の寄稿も交え，にぎやかな紙面になりました．歯学部創立30周年，歴史を紐解くのみならず，新しい30年に向けた希望と力あふれる，よい年となりますこと心からお祈りしております．